古代豪族水沼の君

久留米市域の南西部は、かつて大部分が筑後国三潴郡に属していました。『日本書紀』には水沼・水間と記された豪族が登場し、その内容からヤマト政権と友好な関係を持ち、海や川を介した水上交通・交易で活躍した有力豪族と考えることができます。筑後川や有明海を介し、朝鮮半島とも交易していたと考えられています。

▲水沼の君の外交ルート（推定）

水沼の君の時代

久留米市大善寺町には、100mを超える大型古墳が2基存在します。帆立貝式前方後円墳の御塚古墳と円墳の権現塚古墳です。水沼の君一族の墳墓（ふんぼ）と考えられる2基の古墳は、5世紀後半～6世紀前半頃に築造されています。この時期、日本はヤマト政権を中心に統一が図られていました。

水上交通に長（た）けた水沼の君は、ヤマト政権との良好な関係の下で活躍しました。

▲筑紫平野の首長墓分布図

水沼の君の先祖たち

古墳時代を遡（さかのぼ）る弥生時代、この地域には大集落が営まれていました。安武町の塚畑（つかばたけ）遺跡や大善寺町の道蔵遺跡、三潴町の高三潴遺跡です。特に高三潴遺跡では銅剣や小銅鐸（しょうどうたく）などの青銅器、日本で数例しか出土していない連玉（れんだま）が発見されており、筑紫平野の中でも有力な集落だったと考えられます。これらの集落を束（たば）ねた有力者が、水沼の君に成長していきました。

▲高三潴遺跡出土の連玉

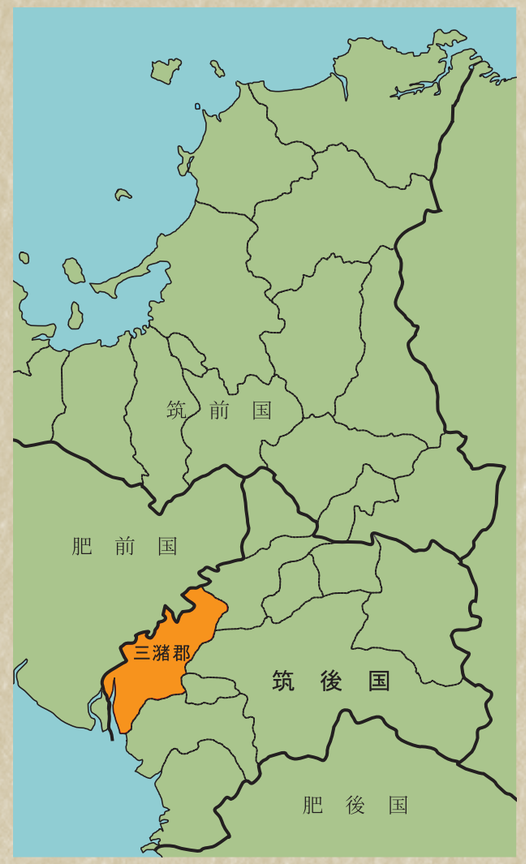
▲高三潴遺跡出土の小銅鐸（市指定有形文化財）

水沼の君と三潴

古墳時代に九州を代表する豪族として活躍した水沼の君でしたが、7世紀になると天皇を中心とした中央集権国家の下、三潴郡の役人になったと考えられます。

水沼と呼ばれたこの地域は、筑後国三潴郡に編成され、郡衙（郡家）と呼ばれる役所が設けられました。大善寺町荊津（おどろつ）の道蔵遺跡はその関連遺跡と考えられます。水沼の君の末裔（まつえい）たちは、律令国家における地方役人として活躍したことでしょう。

江戸時代まで筑後国三潴郡は続きますが、明治時代を迎えると、明治4（1871）年に三潴県が成立しました。三潴県は筑後一円を収め、一時期は佐賀県も編入しましたが、明治9(1876)年8月に廃止され、福岡県に編入されました。水沼の君に由来する三潴の名は、1500年以上の時を超えて、現在も三潴郡や三潴町として生き続けています。



▲旧郡地図